

特別展

コロナ禍に南吉を読む

感染症と新美南吉

明日はみんなをまっけている。
泉のようにわいている。
らんぷのように点っている。

「明日」より

2021年
7月17日(土)～
10月24日(日)

※新型コロナウイルス感染拡大の状況により
会期が変更になる可能性があります。

- 開館時間……9時30分～17時30分
- 休館日……7/19(月)・26(月)、
8/2(月)・10(火)・11(水)・23(月)・30(月)、
9/6(月)・13(月)・14(火)、
10/11(月)・12(火)・18(月)・25(月)
- 観覧料……常設展観覧料220円(中学生以下無料)で
特別展もご覧いただけます。
※南吉さんの日(誕生日)の7/30は無料

緑陰で読書をする新美南吉

新美南吉記念館

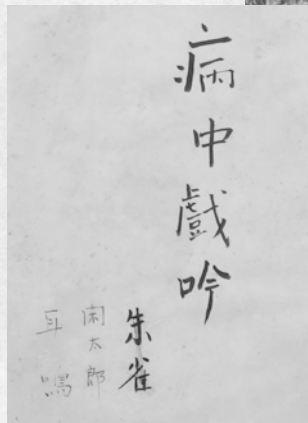
〒475-0966 愛知県半田市岩滑西町1-10-1 TEL (0569)26-4888 FAX (0569)26-4889
【交通】名鉄河和線/半田口駅より西へ徒歩20分 知多半島道路/半田中央ICより東へ5分
半田市地区路線バス「ごんくる」/知多半田駅(雁宿ホール前)の停留所から15分

特別展

コロナ禍に 南吉を読む

感染症と新美南吉

病氣療養中に書き留めた
俳句帳の表題「病中戯吟」



痩せすぎで師範学校を不合格になった年の南吉
(1931年)

2021年 7月17日(土)~10月24日(日)

新美南吉の子ども時代、世界中でスペイン風邪が猛威を振るい、南吉自身も結核で命を落としました。感染症が南吉に与えた影響を通して、コロナ禍の今、私達が南吉文学から何を読み取れるかを考えます。

第1章 感染症との闘い

- 100年前のパンデミック
- 半田の避病院とベスト騒動
- 「おじいさんのランプ」裏話

第2章 感染症と文学

- 感染症と文学
- 結核に苦しんだ文学者たち
- 感染症を描いた南吉作品 他

第3章 新美南吉と結核

- 結核と闘った生涯
- 周囲にいた患者
- 南吉を診た医者 他

第4章 コロナ禍に読みたい南吉作品

- 孤独と孤立…「狐」「川」A
- 暴走する正義…「牛をつないだ樁の木」
- 差別と分断…「張紅脛」

第5章 明日は待っている

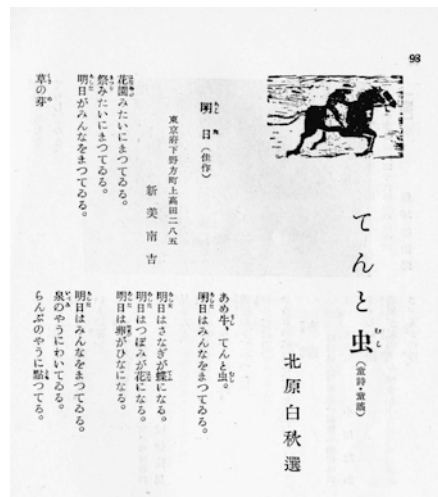
- 明日を届ける…詩「明日」



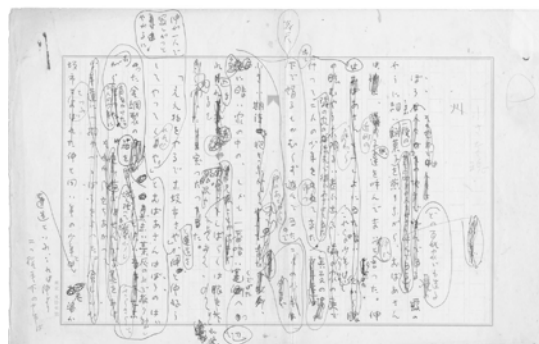
ベストが発生した半田町でのネズミ駆除
1916年推定(『半田市医師会史』より)



南吉を診察した中野医院
(現・中野整形外科)



『赤い鳥』1932年10月号に掲載された「明日」



少年の孤独をモチーフにした「川」A原稿

ミュージアムトーク 学芸員が特別展の解説をします

7/17(土)・30(金)、8/1(日)・15(日)、
9/23(祝)、10/2(土)・16(土) 13時30分~14時

新美南吉記念館

TEL0569-26-4888

公式HP・SNS もご覧ください

新美南吉記念館 検索

